

最新版 : <http://www.kojima-core.co.jp/report.html>  
バックナンバー : <http://www.kojima-core.co.jp/backnumber.html>  
e-mail : [kojima@kojima-core.co.jp](mailto:kojima@kojima-core.co.jp)

## 第27回管工機材・設備総合展



第27回管工機材・設備総合展(2008年10月2, 3, 4日)に出展しました。KOJIMAの新しい配管方法”排水立て管更新の施工性”として、「US工法の目的」を紹介しました。



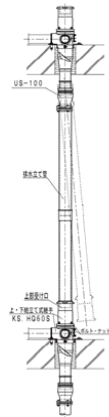
### ●US工法の目的

#### US工法の目的

US工法\*)の目的は排水立て管の維持管理(清掃・点検・補修)・更新を行うことにより、約60年を超えて居住できるようにすることです。

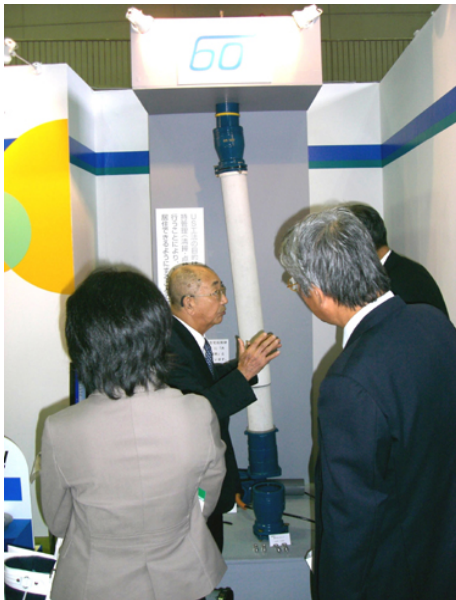
具体的には、排水立て管更新工事の際に上部受け口のバックギンが経年によって癒着し、既設の立て管を引き抜くことができない場合でも、上・下組立て式継手であれば、ボルト・ナットを取り外して、排水立て管と上部継手を一緒に取外すことができ、更新が可能となります。

\*)US工法: KJ・US工法とUS・両受ユニット工法の略称です。  
カタログP42 施工手順図をご高覧下さい。



### ●展示会場風景

展示会で説明する小島徳厚会長



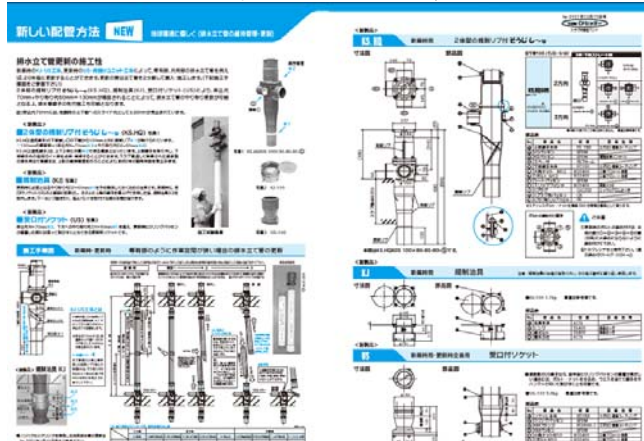
### ●継手内部の目視状況

排水立て管の維持管理(清掃・点検・補修)・更新ができます。



### ●排水立て管の更新 (それには新築時からの仕掛けが必要です)

2008年9月版COREカタログP42, P43



### ●関連リンク

2008.08.31号  
2005.10.15号

新築時・更新時 専有部の立て管更新は、こちら  
HQジョイント 内部の流れは、こちら

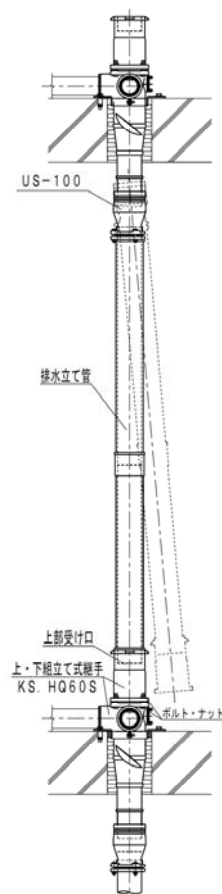
## US工法の目的

US工法\*)の目的は排水立て管の維持管理（清掃・点検・補修）・更新を行うことにより、約60年を超えて居住できるようにすることです。

具体的には、排水立て管更新工事の際に上部受け口のパッキンが経年によって癒着し、既設の立て管を引き抜くことができない場合でも、上・下組立て式継手であれば、ボルト・ナットを取り外して、排水立て管と上部継手を一緒に取外すことができ、更新が可能となります。

\*)US工法：KJ・US工法とUS・両受ユニット工法の略称です。  
カタログP42 施工手順図をご高覧下さい。

小島 徳厚



### KJ・US工法とは

KS継手差し口の規制リップKおよび規制治具KJによってやり取り代60+呑込代70を確保します。

※呑込代70mmには、地震時の上下動へのスライド代として±20mmが見込まれています。

#### <お願い>

立て管受口上面と継手差し口規制リップ下面との間隔D2は、やり取り代60mm+15mm(計75mm)以内となるように施工して下さい。

### US・両受けユニット工法とは

専有部の狭いPS内には、更新用のUS・両受けユニットと第2立て管との二体で持ち込んでやり取り接続します。

註)  
仮に、耐火二層管用受口付短管等を用いて、立て管を中間部でやり取りし、ルーズな状態で接続すると、その箇所の支持をどうするか?の課題が残ります。

## 排水立て管更新の施工性

新築時の**KJ・US工法**、更新時の**US・両受けユニット工法**によって、専有部、共用部の排水立て管を例えば、20年毎に更新することができます。更新の際は立て管を2分割して搬入・施工します。(下記施工手順図をご参照下さい)

2体型の規制リップ付 **そうじし〜** (KS.HQ)、規制治具(KJ)、受口付ソケット(US)により、呑込代70mm+やり取り代60mm=130mmが確保されることによって、排水立て管のやり取り更新が可能となる上、排水管継手の先行施工も可能となります。

註)呑込代70mmには、地震時の上下動へのスライド代として±20mmが見込まれています。

### <新製品>

#### ■2体型の規制リップ付 **そうじし〜** (KS.HQ) 写真1

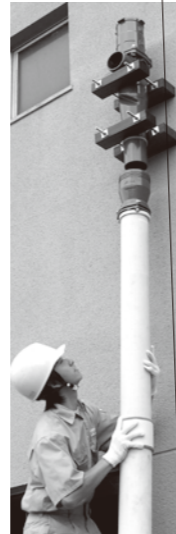
KS.HQ(通気継手)の下部差し口の下端から130mm上方に規制リップ※1が設けられています。  
 ∴130mmの直管部=(呑込代N=70mm※3+やり取り代D2=60mm※4)  
 KS.HQ(通気継手)は、上下2体に分割※2できる構造となっています。上部継手を取り外し、下部継手内の旋回ガイド部を点検・補修することができます。スラブ貫通して設置された鉄製排水用立て管継手は、上記の維持管理を行うことにより、約60年の耐用年数を見込みます。

### <新製品>

更新時に必要となるやり取り代D2=60mm※4を予め確保しておくための治具です。新築時に、受口付ソケット(US)の上端面に仮乗せし、その上へ上階の継手を積上げて支持した後、規制治具(KJ)を取外します。マーキング線を引く、係止バンドを取付ける等の手間が省けます。

### <新製品>

呑込代N=70mm※3、下方へのやり取り代D1=60mm※5を備え、更新時にOリングパッキンが癒着した際には揺って剥がすこともできる更新用ソケットです。



施工試験風景

写真1 KS.HQ60S 100×80-80-㉔

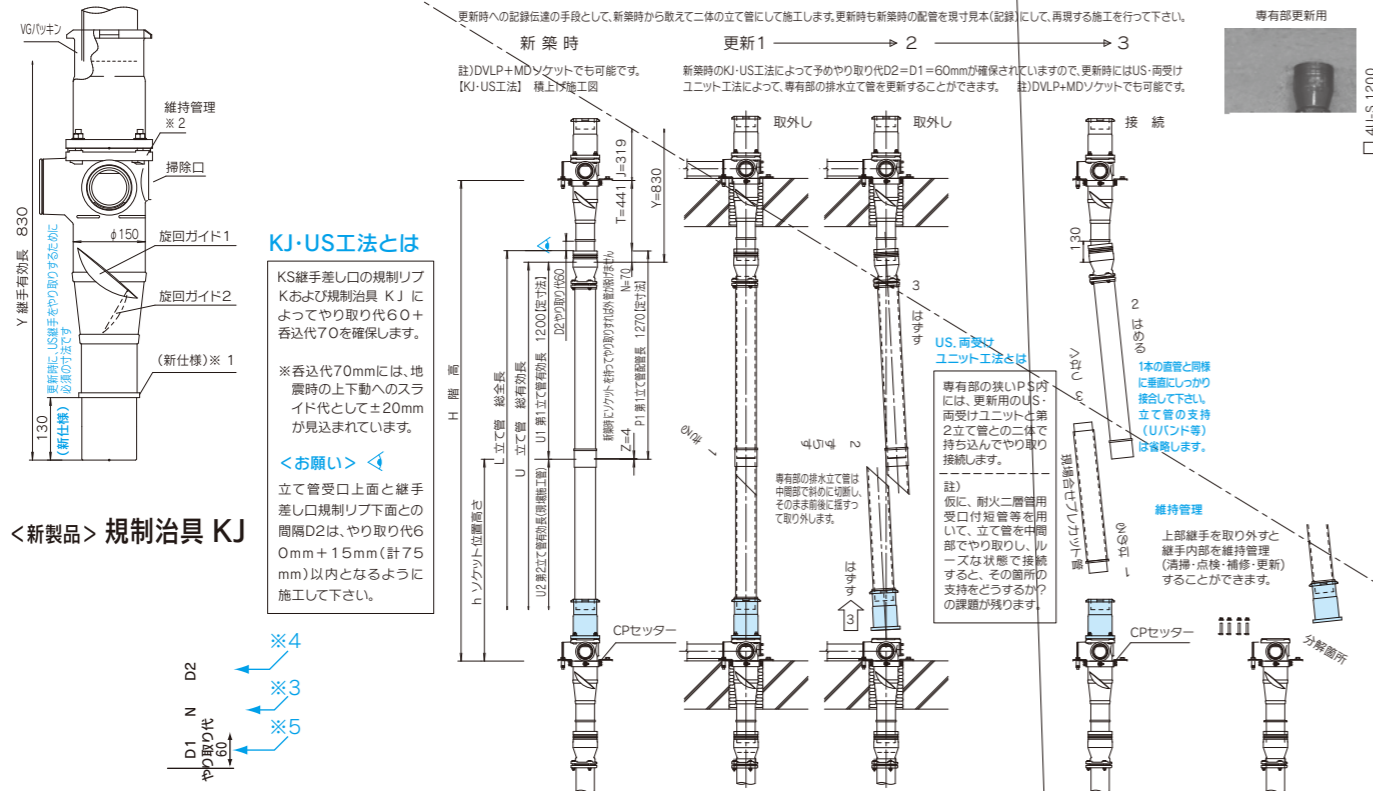


写真2 KJ-100



写真3 US-100

## 新築時・更新時 専有部のように作業空間が狭い場合の排水立て管の更新

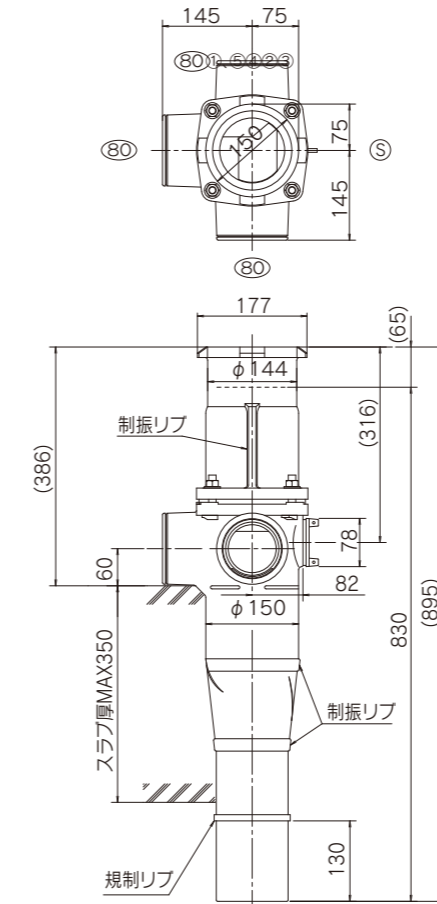


US・耐二両受けユニット工法 配管長割り出し表 単位:mm

入力値	定寸法						計算値			
	H 階高	Y 継手有効長	U1 第1立て管有効長	P1 第1立て管全長	M 第1立て管全長	N 呑込代	J 立て管総有効長	U2 第2立て管有効長	L 立て管全長	h ソケット位置
KS.HQ60S	3000	830	1200	1270	1320	70	2170	970	2240	1289

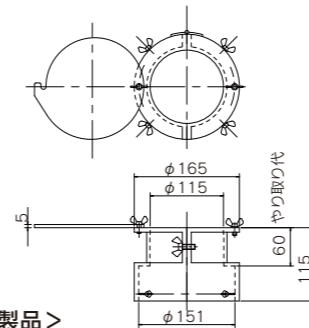
●ノンハブカップリングを使用した共用排水管の更新は  
 hp 2007年1月15日号をご参考下さい。  
<http://www.kojima-core.co.jp/20070115report.html>

### <新製品>

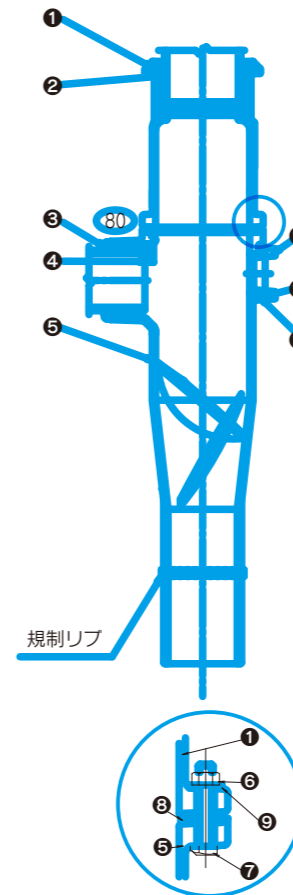
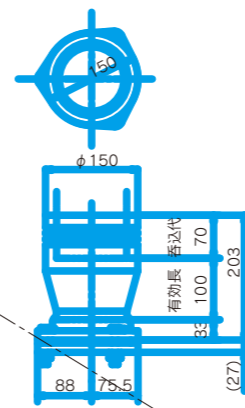


本図はKS.HQ60S 100×80-80-㉔です。

### <新製品>

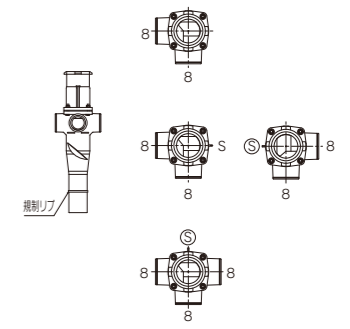


### <新製品>

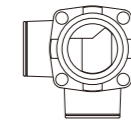


## KS.HQ60S

※



ボルトの締め付け順序



●KJ-100 1.7kg 重量は参考値です。

●US-100 5.6kg 重量は参考値です。